

## 令和4年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

未来予測が困難な社会を生き抜くために、グローバルな視点で、自らがアクションを起こし、社会をリードする人材を育成する学校をめざす。そのために新たな価値を創造する力、社会を生き抜く人間力、多様性を尊重する社会的包容力を養う。

## 1. めざすべき生徒像

- |                                      |         |
|--------------------------------------|---------|
| ①「人・社会・世界」の課題に気づき、解決しようとする志を持つ生徒     | 志す      |
| ②幅広い教養を身につけ、知性を磨き、新たな価値を創造する生徒       | 創造する    |
| ③社会の多様性を認識し、「人・社会・世界」と繋がる生徒          | 繋がる     |
| ④以上のことを実現するために、己の将来を描き一歩踏み出すことができる生徒 | 描き、実行する |

## 2. めざすべき教職員集団

- |  |           |
|--|-----------|
| ①生徒・保護者に寄り添いながらも、新たな教育課題に対して果敢に挑戦する教職員集団 | 挑戦する      |
| ②常に学びの姿勢を持ち、切磋琢磨する教職員集団                  | 切磋琢磨する    |
| ③他者理解に富み、アイデンティティを尊重する人間味あふれる教職員集団       | 人間味が豊かである |
| ④互いの持ち味を認め、多様な力を糾合するチーム力のある教職員集団         | チーム力がある   |

## 2 中期的目標

「\*○囲み数字は『学校教育自己診断』の項目番号です。」

## 1. 課題に気づき、解決しようとする志を持つ生徒を育成する。

- (1) 思考し、探究する力の育成：1年『産業社会と人間』、2、3年『総合的な探究の時間』、探究的学習の体系化

※卒業時の産業社会と人間と探究の学びを測るために学校教育自己診断「産業社会と人間・総合的な探究の時間・探究的な学びができた」生徒② (R1:74.8%、R2:47.2%、R3:78.0%)における3年生の肯定的回答を、R4は80%以上とし、R6には85%以上とする。R4:84% (○)

- (2) 自尊心の醸成を促し、「自主自律」を基本に己を律する力の育成

※遅刻者数の一層の低減を行い、R4にR3以下、R6年度に2000回以下にする。(R1:4141回、R2:2647回、R3:2697回) R4:3847回 (△)

※学校教育自己診断「先生方は生徒の意見をよく聞いている。」生徒③ (R1:62.6%、R2:62.6%、R3:74.5%)での肯定回答をR4は75%以上に、R6には80%以上に。「担任の先生以外にも気軽に相談することができる先生がいる。」生徒④ (R1:52.4%、R2:56.2%、R3:59.7%)での肯定回答をR4は63%以上、R6には70%以上とする。③R4:83% (◎) ④R4:66% (○)

※学校教育自己診断「今宮高校で人として成長したと思う」生徒⑤における3年生の肯定感 (R1:88.1%、R2:90.1%、R3:87.8%)をR4は90%以上とし、R6はこの数値を維持する。R4:91% (○)

- (3) 国連が提唱するSDGs・ユネスコスクールを「ジブンごと」化し、アクションを起こす力の育成：自治会活動や産社・総探・課題研究を通じて、SDGsの17の目標のいずれかについて全校的な取組を推進する。

※学校教育自己診断「本校は、ユネスコスクール・SDGsを推進している」生徒⑥ (R1:53.4%、R2:67.3%、R3:77.6%)ではR4は80%以上、R6には85%以上 ⑥R4:82% (○)

「自ら課題を発見し、自分の身の回りから社会を変革する力がついた」生徒⑦ (R1:60.5%、R2:60.4%、R3:64.6%)では、R4に65%以上、R6には70%以上の肯定的評価にする。⑦R4:75% (◎)

## 2. 幅広い教養を身に付け、思考力・判断力・表現力を養い、主体的に学ぶ力を育成する。

- (1) ICT活用、授業アンケート、研究授業、授業評価をフィードバックし、教科毎に授業力を向上させ、進路実現に結びつく質の高い授業を生徒に提供する。

※学校教育自己診断「学ぶことの意味について考え、授業を大切にするようになった」生徒⑧ (R1:71.1%、R2:75.8%、R3:80.5%)をR4は83%以上、R6年度に85%以上の肯定的評価とし、学校教育自己診断「本校の学習だけで、進路達成に必要な力が身につく」生徒⑨ (R1:53.0%、R2:53.7%、R3:57.3%)をR4は60%以上、R6に65%以上の肯定的評価とする。⑧R4:81% (△) ⑨R4:68% (◎)

- (2) 『考える力』、『まとめる力』、『伝える力』の育成：生徒が発表する機会・場の提供と生徒相互の取組みへの支援・育成

※総合の時間における「今高生の主張」、「ディベート」、「未来探究」、「ビブリオバトル」等のプログラムの改善

※学校教育自己診断「この学校の授業では、自分の考えをまとめたり、発表することがよくあった。」生徒⑩ (R1:84.7%、R2:85.1%、R3:88.5%)をR4には90%以上の肯定的評価とし、その後R6もそれを維持する。⑩R4:95% (◎)

- (3) 自らが学びへの高い志と意欲をもって学習に取り組む生徒の育成

※学校教育自己診断「家庭学習を毎日した」生徒⑪ (R1:25.0%、R2:27.0%、R3:27.2%)の肯定的評価をR4では30%以上にし、R6には40%以上とする。⑪R4:34% (○)

- (4) 4技能をバランスよく配した英語の授業の推進とそれぞれのレベルでの英語表現力の向上

※英検2級以上の合格者を2年生終了時に(新規)R4は30%以上とする。R6には60%以上とする。R4:7.1% (△)

## 3. 社会の多様性を認識し、「人・社会・世界」と繋がる力を育成する。

- (1) 国際感覚と国際交流力の育成：ユネスコスクール・SDGsに取り組み、多様な文化を理解する国際交流を促進する

※学校教育自己診断「本校は国際交流に力を入れている」生徒⑫ (H30:データ無、R1:67.8%、R2:45.1%、R3:50.4%)を、R4では肯定感を55%以上、R6には65%以上とする。⑫R4:62% (◎)

- (2) 共生推進教室を中心に、「共に学び、共に育つ」インクルーシブ教育の推進を行う。

※学校教育自己診断「障がいがある人たちと『共に学び共に育つ』大切さを学ぶ機会があった。」生徒⑬ (R1:61.5%、R2:63.7%、R3:69.1%)を、R4は70%以上、R6には80%以上の肯定的評価とする。⑬R4:86% (◎)

- (3) 小中学校、地域、地元自治体と連携した防災活動を充実させる。

※学校教育自己診断「本校では、地震や火災の際の対応は知らされている」生徒⑭ (R1:60.4%、R2:51.2%、R3:67.8%)を、R4では70%、R6には75%以上の肯定的評価とする。⑭R4:72% (○)

(4) 社会に開かれた学校づくりを推進し、地域貢献を進める。

ア) ホームページの充実、学校説明会、中学校訪問の充実を図り、入試倍率を R5 入試は 1.00 倍以上を継続、R7 入試は 1.10 倍以上を獲得する。  
R4:1.55 倍 (◎)

イ) 教養講座の充実と地域行事への参加を促進する。  
※学校教育自己診断「本校は、さまざまな地域の活動に参加・貢献している」生徒④ (R1:51.9%、R2:44.7%、R3:61.8%) の項目を、R4 では 65% 以上、R6 には 75% 以上の肯定的評価とする。④R4:73% (◎)

ウ) PTA、同窓会、後援会との連携の強化  
※学校教育自己診断「学校では PTA 活動は活発である」保護者③ (R1:74.6%、R2:81.5%、R3:77.9%) の肯定的評価を R4 以降も 80% 以上を維持する。③R4:68% (△)

4. 自分の将来を描き、そのための実行を進めるためのキャリア教育の充実

(1) 高・大・社を意識した系統的なキャリア教育の充実を通じて、進路実現の意識の醸成を行う。  
※学校教育自己診断「希望進路や選択科目の指導はきめ細かく、適切に行われた」生徒② (R1:82.3%、R2:81.1%、R3:86.0%) を R4 は 85% 以上継続、R6 には 90% 以上の肯定的評価とする。②R4:88% (○)

(2) 進路実現を可能にする学力の育成  
※大学入学共通テストにおいて平均点以上を獲得する科目数を [R2:426 科目、R3:339 科目] R4 は 400 以上、R6 には 500 以上とする。  
R4:290 科目 (△)

(3) 国公立及び有名私大(関関同立産近甲龍・早慶上・MARCH) 合格レベルの学力育成を支援する情報提供と学習指導の充実  
※京大阪大神大府大市大を含め国公立大学への合格者数が、R4 は 25 名以上、R6 年度には 40 名以上とする。(R1:24 名、R2:27 名、R3:18 名)  
R4:19 名 (△)  
※関関同立+近の合格者の合計が、R4 は 130 名以上 (R1:138 名、R2:128 名、R3:136 名)、R6 には 150 名以上とする。R4:130 名 (○)

5. 教職員集団「チーム今宮」の育成

(1) ビジョン委員会-カリキュラムマネジメント委員会-運営委員会の活性化を図り、高大接続改革など新たな教育課題に挑戦し、伝統校としての魅力を持つ高校に改革するために、互いに切磋琢磨する教職員集団の育成を行う。  
※学校教育自己診断「本校がめざす学校像を実現するために、教職員は同僚性を高め、協力して教育活動を行っている。」教員② (R1:28.6%、R2:50.0%、R3:59.2%) を、R4 は 60% 以上、R6 には 65% 以上の肯定的評価とする。②R4:59% (△)  
※学校教育自己診断「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」教員⑤ (R1:35.7%、R2:65.0%、R3:63.3%) を、R4 は 65% 以上、R6 には 75% 以上の肯定的評価とする。⑤R4:76% (◎)

(2) 教職員の授業力・キャリア教育力の向上を図る。  
※初年度に学校教育自己診断「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく」生徒⑥ (R1:53.0%、R2:53.7%、R3:57.3%) を R4 は 60% 以上、R6 には 65% 以上、  
学校教育自己診断「教え方を工夫するなど先生方は授業に熱心だった」生徒⑩ (R1:69.2%、R2:76.9%、R3:80.7%) を R4 は 85% 以上、R6 には 90% 以上とする。⑥R4:68% (◎) ⑩R4:84% (△)  
※授業アンケートの 9 項目平均を向上 授業アンケート 9 項目平均 (R1:、R2:、R3:3.36) を R4 は 3.41 以上、R6 には 3.50 以上とする。  
R4:3.33 (△)

(3) 情報共有を促進させ、ICT を有効活用できる教員の育成  
※学校教育自己診断「本校は計画的に人材育成を行っている」教員④ (R1:10.7%、R2:50%、R3:40.8%) を、R4 は 50% 以上、R6 には 60% 以上の肯定的評価とする。④R4:50% (○)

(4) 仕事の平準化、合理化を推進し、「働き方改革」を行う。  
※ストレスチェックの総合指数を R4 は 106 以下に、R6 には 100 以下にする。R4:102 (◎) (R2:105 R3:111)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 4 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【全体として】</b>                      ☆今年度はほとんどのデータにおいて伸びを示しており、総合的には評価できる。                      ☆系列変更、生徒指導対応の変更、産社・総探の授業内容改編等に対して混乱し、広報でも今宮高校のストロングポイントを魅力として伝えきれなかった状況となっていた。そんな流れの中で、ストロングポイントを共有し、さらにウイークポイントを改善に努め、目標に向かって進むための土台ができつつあると感じている。そのことが今回のデータに反映していると考えている。                      ☆今後は各施策においてさらにブラッシュアップを図り、R5 年度より掲げるスクールミッションを果たすための企画運営に注力していきたい。特に学習の充実をもたらし、その結果希望進路実現を可能にしていくことを早期に達成することをめざす。</p> <p><b>【総合学科について】</b>                      ① データ                      * (1) [生徒全体比較 (R1~R4)、生徒 3 学年比較、25 期生 3 年間比較] に着目                      「項目①今宮総合学科で学んで良かった」、「項目②学校生活や学校行事においても総合学科らしさを感じる」                      →元々高い肯定率であるがさらに微増、特に②では系列変更前まで回復                      「項目③今宮高校で学んで人として成長した」、「項目④自ら課題を発見し、自分の身の回りから社会を変革する力がついた」                      →年々、学年を重ねるごとに上昇                      * (2) [生徒全体比較 (R1~R4)、1 年生生徒経年変化比較、2 年生生徒経年変</p>	<p><b>第 1 回令和 4 年 6 月 1 日 (木) 15:30 ~ 17:00</b>                      久隆浩 (近畿大学 教授)、渡辺慶人 (大阪市立木津中学校長)、奥浦光雅 (本校同窓会長)、                      幡多伸子 (浪速区長)、中階ゆかり (本校 PTA 会長)、                      安田幸一 (校長)、渡口秀信 (教頭)、大塚泰之、藤川恵子 (首席)                      ○ 開式の辞                      ○ 校長挨拶                      ○ 大阪府立今宮高等学校 学校運営協議会 実施要項準則及び傍聴規則                      ○ 運営協議会会長及び副会長選出                      ○ 校内組織体制について                      ○ 人権教育年間プログラムについて                      ○ 産業社会と人間・総合的な探究の時間・LHR 計画について                      ○ 協議                      令和 4 年度学校経営計画を基に意見交換                      ◎意見                      ・地域の課題、社会の課題を見つけていく力 (課題発見力、課題解決力) が新しいキャリアにつながっていくだろう。                      ・データの分析などを取り入れることで、浪速区の課題などを客観的に分析していき課題解決に運用できるのでは。                      →今後、学校の取り組みと情報系、ビジネス系の科目がうまく組み合わせさえすればもっと広がりができるのではないかと。                      ・昨年度も同窓生が 1 年生に向けて SDGs などの講演会をしたが、今年度も違う企業の同窓生にも声をかけることができます。</p>

化比較]に着目

項目 ⑫ (今までも発表する機会があったので元々高い。今年度の場合は1年生、2年生において今までよりも高くなっている。

\* (3) [生徒3学年比較、1年生生徒経年変化比較、2年生生徒経年変化比較]に着目

「項目⑭総合学科で学んで、自分の進路選択ができた」

→3年生において肯定が強い傾向は元々ある。今年度の場合は1年生では高いが、2年生では低い

「項目⑯大学について理解することができた」、

「項目⑰働くことの意味や職業について考え、理解が深まった」、

「項目⑱自分の適性や進路について考えるようになり、進路希望が具体的に変わった。」

→3年生では満足度はあがっているが、2年生でのデータが低い。

\* (4) [保護者全体比較 (R1～R4)、保護者各学年比較]に着目

「項目①子どもが今宮総合学科で学んでよかった」、

「項目②他の学校にはない特色があり、独自の教育活動に取り組んでいた」、

「項目③子どもは今宮高校で学んで人として成長した」、

「項目④、自分の生き方を考え、豊かな心を持った生徒を育てようとしていた」

→昨年度より低下はしていないが、改編前のデータには戻っていない。

② 分析

\*R2より系列変更が行われたため総合学科らしさを受けとめにくい状況となった。選択科目には大きな変更を行ってわけではないが、希望進路実現に向けて選択できる幅が絞りように指導したことが影響していると考えられる。そのようななかで、科目選択という外枠ではなく、内容で総合学科の特色を活かした教育を構築するように組み直した。総合の授業の内容を改変し、「産社」での「キャリア教育」、「SDGs 課題解決」をテーマとした学びにより、総合学科としての目標を明確にして取り組んでいる。今年度はその取り組みが寄与していると受け止めている。今後も「産社」「総探」の体系的プログラムをブラッシュアップしていき、さらに成果を上げることができると考えている。

\*項目④での上昇は、課題発見をして、自分ごととしてとらえながら課題解決に至るように取り組んでいる成果だと考えられる。将来において社会で活躍する礎となってくれるとうれしい。

\*総合の授業では「キャリア教育」、「SDGs 課題解決」の大きく2つをテーマに構成している。1年生では「キャリア教育」をしっかりと取り組むことで成果を受け止めてくれているが、2年生では「キャリア教育」に対しては評価が低い。一方「SDGs 解決」の取り組みは1年生、2年生ともにプログラムが進められていることがわかる。この取り組み内容のバランスが影響していると考えられる。「キャリア教育」についてもバランスよく3年間取り組むように修正することが必要と受け止めている。

\*保護者には現在の取り組みがまだ伝わっていないと受け止めている。保護者にも伝わるようなプログラム構成を構築したい。

【進路について】

① データ

\* (1) [生徒全体比較 (R1～R4) と生徒3学年比較]に着目

「項目⑯大学について理解することができた」、

「項目⑰働くことの意味や職業について考え、理解が深まった」、

「項目⑱適性や進路について考えるようになり、進路希望が具体的に

なった」、

「項目⑳進路指導室や進路相談室など将来を考えたり調べたりする設備や環境が整っている」、

「項目㉑29)進路希望や選択科目の指導はきめ細かく、適切に行われた」

→微増

「項目㉒19)将来を考えたり調べたりするきっかけや情報を提供している」

→1ポイント減

\* (2) [保護者全体比較 (R1～R4)]に着目

「項目⑨生徒の進路指導について熱心に取り組んでいた」、

「項目⑩子どもが望ましい勤労観、職業観を持つことができるよう、系統的なキャリア教育を行っている」

→増

「項目㉓11)進路についての情報をよく知らせてくれた」

→微増

②分析

\*25期3年生には進路指導が伝わっていると受け止められる。また1年生でもキャリア教育のプログラムが多いので肯定感が高い。

\*保護者への進路指導への理解は昨年度よりは伸びているが、肯定率はまだ低い。生徒と同等の肯定率を得られることを目標にしなければならない。

\*生徒も保護者も情報提供、情報共有は重要であると考え。今年もICTを活用して工夫を試みたが、さらに多くの保護者が関われるような工夫を取り入れた。

【学習・授業について】

① データ

\* (1) [生徒全体比較 (R1～R4) と生徒3学年比較]に着目

「項目⑥学校の授業・補講等だけで進路実現に必要な力が付いた」

→大幅増

「項目⑩先生方は、教え方に工夫をするなど授業に熱心だった」

・クラブの後援会が集まってNPO化することも検討。

・なんば駅前広場がよいよ着工。まちづくりの観点からビジネスと結び付けて広げてもらえる方もいるのでご紹介できます。

・高校の近隣の施設も活発になってきている。

・中学校では学びサポート事業を取り入れている。

・コロナで今までできなかったことが保護者も子どもたちもたくさんあったが、少し落ち着きつつあるので直接学校とつながることができるのありがたい。PTA 役員の方々も率先してご協力していきたい気持ちがある。

・令和5年度使用教科用図書選定理由書について

◎ 内容について承認します。→ デジタル教科書についても今後検討を。

第2回令和4年11月4日(金) 15:00 ～ 17:00

久隆浩(近畿大学 教授)、渡辺慶人(大阪市立木津中学校長)、幡多伸子(浪速区長)、中隋ゆかり(本校PTA会長)、

安田幸一(校長)、渡口秀信(教頭)、大塚泰之、藤川恵子(首席)

○ 開式の辞

○ 校長挨拶

○ 事務局からの報告

①本年度の取組み状況について

②来年度に向けた取組みについて

③広報活動について

○ 協議

◎ 意見

・希望倍率は今後少し減るかもしれないが、情報発信の力が大きいので、今年は伸びるのではないかと。

・標準服が変わることは中学生にとってはとても大きい。女子にとっては選ぶ材料としては大きいのでは。

→コンシェルジュ、広報委員会の立ち上げで生の声が大きく影響している。

・生徒指導部と警察の連携、体制を→外部の機関と連携をもっている。保護者とも連携を。

・阪大の学生との連携がとてもいい。

・遅刻が多いのが気になる。コロナ禍で学力、心のしんどさも影響もあるのでは。

・進学率を保護者は気にする。基礎学力が抜けていないか心配

・2教科3教科だけに絞るのではなく、最後まで頑張って生徒を大学ではほしい。

・基礎的な知識を持っている生徒、頑張っている生徒を大学では望む。

・それぞれの先生方がスクールミッションに紐づいて、自分たちの教科にも落とし込むことに意味がある。

・HPにもそれぞれの特徴、教科の特色など伝えられることも重要。

・生徒の活動、教科指導などもスクールミッションと連動するように。

・浪速区は全国で一番低い投票率 → 転居するのが早いという理由か。

・若い人に投票することの大事さなど伝えていく必要がある。18歳成人で契約などを失敗しないように、高校でも取り組みをしていかなければならない。

→今年度、3年生の早い時期に授業で実施。保護者にも次回PTAの集まりで実施予定。

第3回令和5年1月19日(木) 15:30 ～ 17:00

久隆浩(近畿大学 教授)、渡辺慶人(大阪市立木津中学校長)、奥浦光雅(本校同窓会長)、

幡多伸子(浪速区長)

安田幸一(校長)、渡口秀信(教頭)、大塚泰之、藤川恵子(首席)

○ 開式の辞

○ 校長挨拶

○ 事務局からの報告

①令和4年度学校教育自己診断

②令和4年度未来探求全体発表会

③令和4年度学校評価

④令和5年度学校経営計画

⑤本校のインクルーシブ教育

⑥スクールミッション

○ 協議

\*R4 学校教育自己診断結果について

数値は多くの項目で伸びている

・学校の授業だけで進路実現に必要な力がついた

・国際交流がのびている (リモートを活用して交流ができています)

・障がいがある人たちと「共に学び・・・」

足りていないところ

・PTA活動と図書活動

←探究活動で参考図書で調べられるように、促す授業にしてもいいか。

国際交流

・グローバル・コミュニケーションが必要 コロナの次のステージへ(文化的交流)

・臆せず、積極的にコミュニケーションがとれることが大事

・地域の中にかかわれるよう 交流が大事

・交流していくことで文法などが必然的についてくる

・エール学園との交流は？(浪速区にあって近い)

→増  
「項目⑧家庭学習を毎日した」

→増、  
「項目⑨講習・補講・自習室開放などを積極的に活用することができた」

→減  
「項目⑦選択科目の決定についてのガイダンス（説明や相談）は十分であった」、  
「項目⑧選択科目は、自分の進路選択とのつながりに満足している」、  
「項目⑨進路希望や選択科目の指導はきめ細かく、適切に行われた」、  
「項目⑩選択した科目については、選びたい科目を選べた」

→どれも増  
\*（2）[3年生生徒経年変化比較と2年生生徒経年変化比較と1年生生徒経年変化比較]に着目  
「項目⑥学校の授業・補講等だけで進路実現に必要な力が付いた」、  
「項目⑩先生方は、教え方に工夫をするなど授業に熱心だった」

→1, 3年生で大幅増

② 分析  
\*学校の授業が、希望進路実現において寄与している肯定感は増加している。とともに教員が授業を工夫しながら構築していることが伝わっていることも受け取ることができる。特に1, 3年生において肯定的に受け止められている。  
\*家庭学習時間は伸びてはいるが、絶対的にまだまだ不足している実態があることは否めない。自主的・自発的な学びの促進を図り、家庭学習時間が伸びるようはたらきかけていくことが重要であると考え。講習等の活用については例年通りであり、実際に大きな変更をしていないためである。  
\*科目選択におけるガイダンス充実度は横ばいである。どうしても第1希望から外れるケースもあることは教員数等からやむを得ないこともあるが、全員の希望が叶うようカリキュラムの工夫を図りたい。

**【生徒指導について】**

① データ  
\*（1）[生徒全体比較（R1～R4）と生徒3学年比較]に着目  
「項目⑪学校における生徒指導や遅刻防止、服装の規律保持などの指導には納得できる」

→昨年度より大幅増  
「項目⑫自分は、積極的にルールの遵守やマナーの向上に努めた」

→増

② 分析  
\*「自主規制」尊重を重視した指導体制を始めて3年めであった。今年度は全学年で生徒指導への理解が進んでいる。また生徒がルールへの尊重に努めている割合が9割を超えた。生徒の意見も尊重しながら指導を進めていること、家庭連絡を丁寧に行う等の取組みの成果だと考える。

**【教育相談・人権教育について】**

① データ  
\*（1）[生徒全体比較（R1～R4）と生徒3学年比較]に着目  
「項目⑬先生方は生徒の意見をよく聞いている」

→大幅増  
「項目⑭担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる」

→増  
\*（2）[生徒全体比較（R1～R4）と生徒3学年比較]に着目  
「項目⑮学校はいじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」

→増

② 分析  
\*相談のできる先生の存在が増えていることは評価したい。「寄り添い」をキーワードに教員にはカウンセリングマインドを追求してきた成果だと考えている。さらにどの先生であっても相談できると言われるよう意識向上に努めたい。  
\*人権教育は3年間のプログラムを見直し、多様性を受け入れる感性を育成するよう取り組んでいる。生徒のデータは確実に伸びてはいるが、さらに伸ばさなければならぬ。  
\*障がいについての学びの機会は伸びているものの、共生推進教室をもつ学校としてはまだ満足できない状況である。昨年度は共生推進教室生が所属している学年での理解が高いという状況であったが、今年度は組織的対応を進めたことにより全学年で理解が進んでいる。まだプログラムの充実を図ることでインクルーシブ教育を進めることができると考えている。

**【国際交流】**

① データ  
\*（1）[生徒全体比較（R1～R4）]に着目  
「項目⑯本校は国際交流に力を入れている」

→増

② 分析  
\*感染症の影響はあるが、その中でICTを利用して交流、国内での交流を通じたプログラムを進めた。その分、国際交流の肯定的な見方が増加したと考える。留学を実施していた年度並みの肯定感が得られてはいるのであるが、なかなか生徒に幅広く国際交流を体験してもらうプログラムまでには至っていない。  
\*今年度は1, 2年生には英検を全員受験することとなり、国際交流が実施された際に、コミュニケーション力を発揮できるような準備を進めている。

\*R5年度行事予定  
・今までと違うところ  
→サマーセミナー・ウィンターセミナーをなくし、夏季進学講習・冬期進学講習を入れる  
・授業見学週間

\*本校のインクルーシブ教育  
・共生生徒の進学について

\*その他  
・英検 新食堂オープンの様子  
・R4年度オープンスクール・学校説明会の参加者人数  
・新標準服のエンブレム紹介  
・部活動の活躍（女子バレー、水球、ダンス、ソフトテニス、書画、美術など）  
・施設について（新プールに向けて工事）2月中旬完成予定

<p><b>【防災】</b></p> <p>① データ</p> <p>* (1) [生徒全体比較 (R1～R4)] に着目 「項目④地震や火災の際の対応は知らされている」</p> <p>→増</p> <p>② 分析</p> <p>*昨年度は避難訓練が実施できていないので、大きく落ち込んだが、今年は一昨年度を超えたので、取り組み内容は成果があったと考える。生徒視点での意見収集を行い、改善を進めた成果ととらえている。まだまだ意識を高めていきたい。</p> <p>*地域との連携は地域からも求められており、特に第2回の防災訓練において何か工夫を図りたい。</p> <p><b>【ICT】</b></p> <p>① データ</p> <p>* (1) [生徒全体比較 (R1～R4) と3年間比較 (R3・R2・R1)] に着目 「項目④本校は有効的に ICT 機器を活用している」</p> <p>→増</p> <p>② 分析</p> <p>*88%が肯定的であることは評価できる。</p> <p>*活用の方法が広がっており、さらに研究を進めることで学習効果を向上させる活用が期待できる。</p> <p>*働き方改革に効果をもたらすところまで整備は進んでいる。業務の効率化を図っていきたい。</p>	
--	--

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1. 高い志を持って己を鍛える力の育成	<p>(1) 思考し、探究する力を育成</p> <p>ア 「今宮志学」の再検討、体系化を行う。</p> <p>(2) 自尊感情の育成、自己を律する力の育成</p> <p>ア 自己を律する力の育成</p> <p>イ 自尊感情の育成</p> <p>ウ 生徒の人的成長の促進</p> <p>(3) ユネスコスクール・SDGs への取組み</p> <p>ア ユネスコスクール・SDGs に全校的に取り組む。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 25期生の探究学習をモデルとし、思考力・判断力・表現力等を育成する探究的学習要素を体系化する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 遅刻に表れる生徒の生活習慣の改善</p> <p>イ 教育相談活動の充実</p> <p>ウ 教育のあらゆる機会を捉えて、生徒の成長を促す</p> <p>(3)</p> <p>ア ユネスコスクール・SDGs を、自治会をはじめ、PTA・有志などであらゆる機会を通じて取り組む。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校教育自己診断「産業社会と人「総合的な探究の時間」生徒②3年 [78.0%] の肯定的回答を80%以上とする。</p> <p>(2)</p> <p>ア 遅刻総数 [2697回] R3以下にする</p> <p>イ 学校教育自己診断「先生方は生徒の意見をよく聞いてくれる」生徒③ [74.9%] の肯定回答75%以上 「担任の先生以外にも、気軽に相談することができる先生がいる。」生徒④ [59.7%] の肯定回答を63%以上</p> <p>ウ 学校教育自己診断「本校に入学して人として成長したと思う」生徒③3年生 [87.8%] の肯定感を90%以上とする。</p> <p>(3)</p> <p>ア 学校教育自己診断「本校は、ユネスコスクール・SDGs を推進している」生徒⑥ [77.6%] を80%以上とする。 学校教育自己診断「自ら課題を発見し、自分の身の回りから社会を変革する力がついた」生徒④ [64.6%] の肯定感を65%以上とする。</p>	<p>(1)</p> <p>ア生徒② [84%] (○) さらにプログラムを充実させることにより思考・探究・創造力を育成できると期待できる。</p> <p>(2)</p> <p>ア遅刻 [3847回] (△) 感染症の影響が減少し、逆に甘えが出ていると考えられる。他校との比較により、分析を深めることも必要。</p> <p>イ生徒③ [83%] (◎)、生徒④ [66%] (○) 生徒への寄り添いが進んでいると感じる。いろいろな課題に直面することもあったが、その際に落ち着いて対応できていると考える。</p> <p>ウ3年生生徒③ [91%] (○) できるだけ個々の生徒に対応できる体制や教員の取り組みが寄与していると考ええる。今後もスクールミッションを共有し、それに基づく成長を促したい。</p> <p>(3)</p> <p>ア生徒⑥ [82%] (○)、生徒④ [75%] (◎) 「産社」「総探」「人権教育」の中で特にプログラムを展開することで、自己啓発や社会性を育み始めていると考えている。</p>

## 府立今宮高等学校

<p>2. 幅広い教養を身に付け、思考力・判断力・表現力を養い、主体的に学力を育成する。</p>	<p>(1) 質の高い授業の提供 ア 授業アンケートの活用及び研究授業などの活性化</p> <p>(2) 思考力・判断力・表現力等の育成 ア 「主体的・対話的で深い学び」の授業の促進</p> <p>(3) 学習習慣、家庭学習の定着 ア 家庭学習の定着</p> <p>(4) 英語4技能習得推進 ア 4技能をバランスよく習得</p>	<p>(1) ア・定量的授業アンケートに加え、生徒の自由記述による定性的アンケートを実施する。 ・各教科による研究授業、授業見学の促進</p> <p>(2) ア 「主体的・対話的で、深い学び」の教職員研修を実施し、深い学びを促進する授業を実践する。</p> <p>(3) ア 自学イベントの実施学習会サマーセミナーとウィンターセミナーの開催</p> <p>(4) ア 英語授業において4技能をバランスよく配した授業の展開を行う。</p>	<p>(1) ア 学校教育自己診断「学ぶことの意味について考え、授業を大切にしようになった」生徒⑤〔80.5%〕を83%以上 学校教育自己診断「本校の授業・講習等だけで、進路達成に必要な学力が身につく」生徒⑥〔57.3%〕の肯定感を60%以上とする。</p> <p>(2) ア 学校教育自己診断「この学校の授業では、自分の考えをまとめたり、発表することがよくあった。」生徒⑩〔88.5%〕の肯定感を90%以上にする。</p> <p>(3) ア 学校教育自己診断「家庭学習を毎日学習した」生徒⑧〔27.2%〕の肯定感を30%以上とする。</p> <p>(4) ア 英語2級以上の取得生徒を2年終了段階で〔新規〕2年生の2級取得者を25%以上にする。</p>	<p>(1) ア 生徒⑤〔81%〕(△)、生徒⑥〔68%〕(◎) 1年生では観点別評価の導入、2、3年生では進路に役立つ授業運営を試みたとは思いますが、これには生徒評価は伸びが示されなかった。学習習慣・進路目標・個別学習等の基本的な学習行動を導くことができていないと考える。</p> <p>(2) ア 生徒⑩〔95%〕(○)「産社」「総探」だけでなく、一般授業でも意見や考えをよく共有している。ICT環境の利活用が進んでいくことにより新たな授業構築が広がっている。</p> <p>(3) ア 生徒⑧〔34%〕(△) 進路目標を叶えるにはまだまだ。進路実績アップのポイントとなる要素ととらえている。</p> <p>(4) ア 英検2級〔7%〕(△) 英検2級取得を掲げ、取り組んだいる成果は出始めている。</p>
<p>3. 社会の多様性を認識し、「人・社会・世界」と繋がる力を育成する。</p>	<p>(1) 国際感覚と国際交流力の育成 ア 海外姉妹校との交流</p> <p>(2) インクルーシブ教育の推進 ア 共生推進教室開設に向けた知的障がい生徒との交流の促進</p> <p>(3) 防災活動の促進 ア 地域の小中学校、地元住民と連携した防災訓練</p> <p>(4) 社会に開かれた学校づくり ア 広報活動の充実</p> <p>イ 地域との連携促進</p> <p>ウ PTA、同窓会、後援会との連携の強化</p>	<p>(1) ア コロナ禍を考慮し、国内でのプログラムを提供する。</p> <p>(2) ア 共生推進教室在籍生徒への理解促進と共に学ぶ教育の理解促進を行い、なにわ高等支援学校との自治会・クラブ・行事など交流の促進。</p> <p>(3) ア 小中学校、地元区民の防災計画を掌握する中で、連携のあり方を作成し、高校として防災に関してリーダーシップを発揮できるようにする。</p> <p>(4) ア ・中学生参加行事の充実 ・HPの充実 ・パンフレットの見直し</p> <p>イ ・浪速区を中心とする地域・企業との連携促進 ・教養講座の継続開催</p> <p>ウ 年間行事について円滑な運営、連携に努める。</p>	<p>(1) ア 学校教育自己診断「本校は国際交流に力を入れている」生徒⑨〔50.4%〕の肯定感を55%以上とする。</p> <p>(2) ア 学校教育自己診断「障がいがある人たちと『共に学び共に育つ』大切さを学ぶ機会があった。」生徒③の肯定感〔69.1%〕を70%以上とする。</p> <p>(3) ア 学校教育自己診断「本校で、地震や火災の際の対応は知らされている」生徒④〔67.8%〕の肯定感を70%以上とする。</p> <p>(4) ア R5年度入試において第3回予備調査までに1.00倍以上。〔0.90倍〕 ・学校説明会での体験プログラムの実施 ・HPの更新回数増 ・新しいパンフレット作成</p> <p>イ 学校教育自己診断「本校は、さまざまな地域の活動に参加・貢献している」生徒④〔61.8%〕の肯定感を65%以上とする。</p> <p>ウ 学校教育自己診断「学校ではPTA活動は活発であったか」保護者⑩〔77.9%〕の肯定感を80%以上とする。</p>	<p>(1) ア 生徒⑨〔62%〕(◎) 対面での交流ができていないにも関わらず国際交流の取組みを感じているのはICT機器を活用して行ったりしているからだと考え。可能な交流を進めようとしている成果である。</p> <p>(2) ア 生徒③〔86%〕(◎) 大きな伸びである。1、3年生の2学年に共生生徒が所属していること。インクルーシブ教育を推進するための組織整理を行い、そのプログラムが進行したことが伝わっており、うれしい結果である。</p> <p>(3) ア 生徒④〔72%〕(○) 迅速な行動だけを求めず、避難経路やするべきことを理解する目標設定で実施していることが効果的であったと分析している。</p> <p>(4) ア 第2回予備調査〔1.55倍〕(◎) HPの充実、説明会の充実重点をおき、進めていったことが大きく寄与している。 ・体験授業を実施した。 ・HPの更新回数は大幅に増加している。 ・R4版を作成した。</p> <p>イ 生徒④〔73%〕(◎) 「産社」「総探」での取り組みがそのまま地域連携となり、肯定的にとらえ、良い影響となっている。</p> <p>ウ 保護者⑩〔68%〕(△)</p>

## 府立今宮高等学校

<p>4. 高い志を持って、進路実現をするためのキャリア教育の充実</p>	<p>(1) 系統的なキャリア教育の充実 ア 高・大・社のトランジションを意識したキャリア教育の充実</p> <p>(2) 進路実現を可能にする学力の育成 ア 講習の充実 イ 自学自習システムの導入</p> <p>(3) 進学実績の向上 ア 進学実績の向上</p>	<p>(1) ア 3年間の進路指導、進路行事を見直し、「キャリアアンカー」を育てる科目選択指導と連動したキャリア教育の推進</p> <p>(2) ア 進学講習の開催 イ 教育産業のVOD学習を希望者に導入</p> <p>(3) ア 教育産業の模擬試験・学力学習実態調査・分析会などの活用を促進し、教職員の進学指導の力量の向上を図る。</p>	<p>(1) ア 学校教育自己診断「希望進路や選択科目の指導はきめ細かく、適切に行われた」生徒⑳[86.0%]の肯定感85%以上を継続する。</p> <p>(2) ア・イ 大学入学共通テストにおいて平均点以上を獲得する科目数を400人以上にする。[339人]</p> <p>(3) ア ・国公立25名以上継続[18名] 関関同立+近の合格数 130名以上継続[136名]</p>	<p>(1) ア 生徒㉑[88%](○) 進路指導は適切な範囲で進められていると分析できるが、1,2年生でのキャリア教育はまだまだ検討が必要であると考え。</p> <p>(2) ア 獲得科目数[290科目](△)</p> <p>(3) ア 国公立25名以上[19名](△) 関関同立&amp;近合格者数[130名](○) プログラムの充実を図ることにより、人数の増加は見込めると考える。</p>
<p>5. 教職員集団「チーム今宮」の育成</p>	<p>(1) 切磋琢磨する教職員集団の育成 ア 学校経営計画を意識した教育活動の推進</p> <p>(2) 教職員の授業力・キャリア教育力の向上 ア 授業力の向上 イ 生徒から信頼される授業 ウ 観点別評価の実施 エ キャリア教育の向上</p> <p>(3) 情報共有を促進させ、ICTを有効活用できる教員の育成 ア クラウドサービス、トップページを活用した情報共有 イ GIGAスクール構想に基づくICTの活用の促進</p> <p>(4) 「働き方改革」の促進 ア 仕事の平準化・合理化の促進</p>	<p>(1) ア 高大接続改革・新学習指導要領・観点別評価の実施・ICTの活用・共生推進教室の設置など、新たな教育課題に対して、学校経営計画を意識し、切磋琢磨する教職員集団の育成</p> <p>(2) ア 授業アンケート及び自由記述結果を活用した教科での検討会の実施。 イ すべての授業での満足度が高い内容を提供する。 ウ 新学習指導要領における観点別評価の導入に向けて、各教科で評価の在り方を検討し、試行・実施する。 エ 高・大・社のトランジションを意識し、「イベント主義」に陥らない系統的で計画的なキャリア教育を推進する教職員集団の育成</p> <p>(3) ア 校内での共有ツールとして学校トップページの活用を構築し、情報伝達や緊急用にクラウドサービスを活用 イ 新たなプラットフォームの導入と活用実践について研修を行う</p> <p>(4) ア やりがいをもって業務を行い、負担を軽減する。</p>	<p>(1) ア 学校教育自己診断「本校がめざす学校像を実現するために、教職員は同僚性をたかめ、協力して教育活動を行っている。」教員㉒[59.2%]の肯定感を60%以上にする。 学校教育自己診断「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」教員㉓[63.3%]の肯定感を65%以上にする。</p> <p>(2) ア 学校教育自己診断「各教科において、教材の精選・工夫を行っている」教員⑧[100%]の肯定感を95%以上を継続する。 イ 授業アンケートの9項目平均を3.41とする。[3.36]</p> <p>ウ 学校教育自己診断「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」教員⑨[87.8%]の肯定感を90%以上とする。 エ 学校教育自己診断「大学について理解することができた。」生徒㉔[86.3%]の肯定感を85%以上を継続する。</p> <p>(3) ア 学校教育自己診断「本校は計画的に人材育成を行っている」教員㉕[40.8%]を50%以上にする。 イ 学校教育自己診断(新規設定)「学校はICT環境整備を行っている」生徒㉖[84.8%]の肯定感を85%以上</p> <p>(4) ア ストレスチェック総合指数を105以下にする[111]</p>	<p>(1) ア 教員㉗[65%](○) 向上はしているがまだまだ向上させなければならぬ。 教員㉘[76%](◎) 研修の整理は進んでいる。教員が新たに獲得する資質、スキルが多く、なかなか追い付かないのが現状であるが、効率的で効果が期待できる研修体制を構築していくことを継続したい。</p> <p>(2) ア 教員⑧[98%](○) 特にICT利活用が昨年度よりも増えただけでなく、方法の工夫を試みている事例が増えている。この流れを支援していく。 イ 授業アンケート2回平均[3.33](△)</p> <p>ウ 教員⑨[87%](△) 昨年度より観点別評価研修を開催し、目標とする評価手法を共有してきたので高止まりしている。3学年が観点別評価となるとときに100%に迫りたい。 エ 生徒㉔[88%](○) まだまだプログラムの充実を求めていると考えている。</p> <p>(3) ア 教員㉕[50%](○) 研修時期や研修内容を精選したこと、トップページやクラウドサービスを活用して情報共有を効果的に行い、資質向上を促したと考える。 イ 生徒㉖[88%](○) 昨年度にある程度ICT環境を整えていたが、特に1年生の利活用が伸びている。さらに充実度を上げたい。</p> <p>(4) ア 総合指数[102](◎)(R2:105 R3:111) 業務の整理と組織の整理を行い、負担感を減らすことができたと考え。</p>